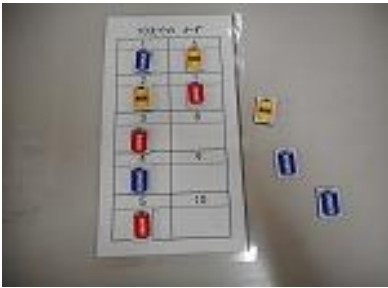
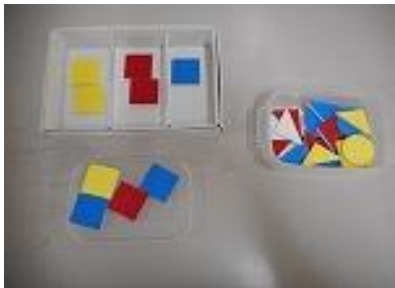


教材紹介（算数・数学）

No.1

1	仲間わけ 	色や形、目的・用途・機能に着目して、その違いを見分けて分類する学習を行う。容器の底に確認カードを入れておき、子どもが分けた後に正解を確かめられるようにしてある。
2	1～5までの数 	算数ブロックを使って、1～5の棒ブロック、ばらブロックの階段を作り、1～5の数を「量」としてとらえる。子どもの実態に応じて、ブロックを棒状もしくはばら状で提示したり、ケースにも台紙やスチレンボード等でのやねを作るなど段階を追って指導する。
3	1～10までの数 	提示された数字カードを見て、その数だけ袋の中におはじきを入れる。カードは数の順番通りに提示したり、ランダムに提示したりする。カードの裏側には数字の数だけ丸シールがはってあり、自分で丸シールとおはじきを合わせることで答えを確認できるようにしてある。
4	1～10までの数 	数のまとまりや数え方に気付き、数詞とものとの関係について関心をもったり、果物狩りをする事で、学ぶ楽しさを体験的に実感したりすることができるように作成した。果物の個数を容器の底に貼ったシールの数で確認できるようにした。
5	かぞえてみよう（5までのかず） 	物の名前や 仲間分け、5までの数を数える教材。児童の好きな模型等で名前を覚えたり、仕切った枠に入れたりして楽しみながら数を数える経験ができる。

6	お金の学習 	・模型・シール・シートを用いて、金銭に関する以下の学習を行う。 1. お金を覚えよう（金種） 2. お金を分けよう（弁別） 3. 金額を合わせよう（金額調整） 4. 同じ金額に揃えよう（等価）
7	マッチングマグネット 	・写真を見て正しい色、場所を確認しながら、皿に入れていく。3色～ランダム模様などの難易度別の手本があり、認知力の向上を目的とした。
8	10のまとめり 	・番号シートに空き缶のイラストカードを貼り付け、10までまたは、いっぱいになったら報告する。校内実習で行っている空き缶洗いの学習とあわせて行うことで、10のまとめりについて意識できるようにする。
9	おなじものはどれかな 	・提示した形と同じ形の方の箱の中には、積み木が入っており、正解が分かるようになっている。
10		・色や形に着目して、その違いを見分けて分類する学習を行う。最初は、丸と三角、赤と黄というように2種類の分類から始め、慣れてきたら増やしていく。

11	買い物のやり方 	・日常的に買い物学習をしていく中で、買い物の仕方をイラスト付きで分かりやすく表示した。生単でバックを作ったので、エコバックとして使用するようにイラストに付け加えた。
12	時計の読み方 	時計が示す時刻を読み取ったり、時刻に合った時計を選んだりする。カードの裏面は、簡単に取り外しができるテープになっているので、シート上の位置を手軽に入れ替えることができる。
13	○△□ でつくろう 	形や色のマッチング、形を組み合わせで車や電車など、身近なものの形をつくる、などが楽しくできる。市販のものを利用して、遊ぶシート（色つき、色なし）を作成した。
14	小物の分類 	5種類の小物を形や色を見て仕分ける。小物を置く場所を変えたり、小物の種類を変えたりして、どのパターンでも正しく取り組むことができるようにしていく。
15	足し算 	10までの数で、合わせていくつかを学習する教材。両側の数（ブロック）をトンネルの中で合わせ、正解の数字を考えたから自分でトンネルを外して確かめる。その後、数式スペースにカードを移し、式を確認する。意欲を高めるため、児童の好きな「トムとジェリー」の壁穴をイメージして作成した。

16	アンパンマン分割パズル 	・アンパンマンが好きな児童が興味をもって学習に取り組めるように作成した。初めは見本を見ながら、分かりやすいキャラクターの顔から取り組み、できるようになったら見本をなくしたり、顔以外のパズルにも取り組んだりして定着できるようにする。
17	ブロック組み立て 	・手本を見て同じ色や形になるように組み立てる。ブロックの形や大きさ、色を変えることで難易度を調整することができる。
18	葉っぱの数字マッチング 	・あらかじめ筒に刺した葉っぱを抜いて、数字の書かれている穴に刺し、葉っぱの数字と穴の数字をマッチングすることで、数列の理解に繋げる。 ・筒から葉っぱを引き抜く時に両手を使うので目と手の協応動作も身につく。